

学研・高大教育フォーラム通信⑤

◆8月3日(土)・4日(日)に開かれる「学研・高大教育フォーラム2019(東京・五反田)」へのお申し込みを続々といただいております。お申込みいただいた皆様、ありがとうございました。

また、ご参加を予定してまだお申込みいただけていない先生方、学研模試HPでお手続きください。(日が近づきますと、申込みを締め切らせていただきます)

◆今回は、「高校の部」の「実践レポート」と「高校現場からの報告」をご紹介します。

◎「実践レポート」

①「主体性と向き合った4年間を振り返って」：後田康蔵先生(長崎県立諫早高校進路指導主事)

長崎県立諫早高校は、「志教育」(生徒自身がそれぞれの「志」を持ち、その『志』へ向かって歩み始めること)を掲げ、キャリア教育を推進してきました。総合力育成プログラム「CDA学習」(将来の夢や希望を見つめ、やりたいことにチャレンジする子どもたちの育成)、「総合的な学習の時間(志タイム)」、「グローバル講演会」など、実に多彩なプログラムから成ります。今もさらなる進化を遂げる「志教育」について後田先生に語っていただきます。

②「洗足学園の平成・学校改革30年一」田中友樹先生(洗足学園中学高校教頭)

東大など難関国公立大学・有名私立大学はいざ知らず、今やハーバード大学など海外の超エリート大学にも多数の進学者を輩出する神奈川の洗足学園中学高等学校。「偏差値35からの痛みを伴う大改革」の中心は、生徒の「マイナー意識の払拭」と、生徒を学外に積極的に送り出す「他流試合」、そして「授業改革」でした。平成の学校改革を振り返りながら、これからの女子教育に必要な視点を、田中先生に語っていただきます。

◎「高校現場からの報告」

①「自立した書き手の養成―書かせる工夫と書いたあとの指導」

鈴木勝博先生(岩手県立大東高校校長)

独自テキスト「唸らせる小論文」を元に、3年間一貫した小論文指導を手掛けてきた、鈴木勝博先生。文章作成が苦手な生徒たちや、文章作成の経験に乏しい生徒たちが、どのようにすれば「読む、書く」ことに立ち向かえるのか、そのための校内組織づくりはどうか。小論文指導のあり方、ヒントをお話いただきます。

②「実践:知識構成型ジグソー法～大学入試改革の風」

畑文子先生(埼玉県立大宮高校進路指導主事)

畑先生は、アクティブラーニングの一つ、「知識構成型ジグソー法」実践のエキスパートの一人として、国語科で自己有用感を高める授業を展開してこられました。今回は「大学の部」の益川弘如先生(聖心女子大学)の「検証:テスト場面でいかなる思考力を発揮しているか～大学入試改革の風」を受け、知識構成型ジグソー法をご実践いただきます。

以上、充実したプログラムで皆さまをお待ち申し上げます。